

意見書

教 科
理科

種 目
理科

発 行 者
東京書籍

調査項目	意 見	
1 学習指導要領 (平成 29 年告示) ・何ができるようになるか ・何を学ぶか ・どのように学ぶか	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・単元導入に、児童の興味・関心を高め、疑問を引き出す活動を設けている。 ・問題解決の過程を学びのラインで「見える化」し、学びの流れを分かりやすく示している。 ・問題解決の過程で働かせる見方・考え方を青枠で囲み、具体的に明示してある。 ・「学ぶ前に」「学んだ後に」と題し、単元導入と単元末に「…について知っていることを書こう」という活動によって学びを実感できる。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・随所に設置した「思い出そう」では既習事項や生活経験との結びつきを意識できるようにしてある。 ・単元末には、学んだことを日常生活や社会につなげる読み物や活動が用意されている。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験ごとの考察の位置付けはもちろん、「つかむ」「調べる」段階に、児童キャラクターの会話を付け、対話を促している。 ・考察の場面を「のぼそう 理科の力」では、「パンダ先生」のせりふで考え方のポイントを示している。
2 岐阜県教育振興 基本計画 (平成 31 年 3 月策定)	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館の紹介として根尾谷地震断層観察館・体験館（6年「私の研究」）、恐竜の化石発見地として岐阜県（6年「大地のつくり」）が、川と川原の様子で長良川の上中下流の紹介が取り上げられている。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な二次元コードからつながるデジタルコンテンツが用意され、活用を促している。 ・全学年の巻末に「理科とプログラミング」のページを設け、プログラミングを体験できる。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験方法の説明の際に、児童が実際に行っている写真が使用されており、視覚的に理解しやすい紙面になっている。 ・車椅子を使用している児童、外国人の児童を取り上げ、多様な児童が男女で協力して学ぶことへの配慮がある。
3 印刷・製本等	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・A 4 版で、見やすく分かりやすい紙面になっている。軽量用紙を用い、総重量が軽減されている。児童机で教科書を開いたときの占有面積が大きい。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・文字が大きく、線が太い。さらに重要語句は太字で下線がつく。 ・初出の漢字には全てルビが振られ、まとめには必ずルビがつく。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末には「理科の調べ方を身につけよう」とし、ノートの書き方、発表の仕方、話し合いの仕方コンピュータの使い方、実験・観察器具の使い方がまとめてある。

意見書

教 科
理科

種 目
理科

発 行 者
大日本図書

調査項目	意 見	
1 学習指導要領 (平成 29 年告示) ・何ができるようになるか ・何を学ぶか ・どのように学ぶか	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・単元導入に、問題を見つける活動を促す写真を載せている。 ・学年始めの単元で、「〇〇のコツ」というよう問題解決の力を示している。 ・理科の見方・考え方につながる着目点を「ココに注目」として示してある。 ・単元末には学んだことを生かして考え、説明する問題が用意され、学びを他の場面に広げる工夫がなされている。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の既習内容や他教科とのつながりを巻末資料として掲載している。「りかのたまてばこ」「Science World」として日常生活や社会との関連を多く取り上げ、理科の学びの有用性を実感できる。 ・「はってん」として中学校での学びへのつながりを一部紹介している。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・考察の場面では、児童がより多面的に妥当な考えを持つことができるように、ヒントになる会話文が掲載されている。
2 岐阜県教育振興 基本計画 (平成 31 年 3 月策定)	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・火山活動の例として 2014 年の御嶽山の噴火が取り上げられている。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・準備するもの、実験器具の使い方などが 2 次元コードを使って調べることができるようになっている。 ・コンピュータを必要としないアンプラグドのプログラミングを意識した場면을掲載している。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験の方法を説明する際に、写真が使用されており、視覚的に理解しやすい紙面になっている。 ・車椅子を使用している児童や外国籍児童が活動する様子を取り上げたり、男女の役割分担を固定しない配慮があったりする。(3 年 P190)
3 印刷・製本等	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・A4 版で、見やすく分かりやすい紙面となっている。児童机で開いたときに占有面積が大きい。また、重量も増している。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・文節で改行し誰にでも読みやすい配慮がされている。 ・文字の大きさや太さを、必要に応じて変化させている。 ・まとめの漢字には必ずふりがなが付されている。 ・重要語句は太字で強調されている。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末には、算数科や理科の既習内容とのつながりを紹介している。 ・理科ノートの書き方、記録と整理の仕方、タブレットの使い方、図書館の本での調べ方科学館の活用の仕方、観察・実験器具の使い方などを説明している。

意見書

教 科
理科

種 目
理科

発 行 者
学校図書

調査項目	意 見	
1 学習指導要領 (平成 29 年告示) ・何ができるようになるか ・何を学ぶか ・どのように学ぶか	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・単元導入に、問題を見つける活動を促す写真を載せている。 ・いろいろな「見方・考え方」を使いながら進める問題解決の過程で育成を目指す「資質能力」を「理科モンスター」として示し、楽しみながら学べる工夫がある。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の既習事項については「○年生で学んだね」として思い出せるような説明がついている。(例：6年P37) ・算数「折れ線グラフ」のかき方などは、使用するページで丁寧に説明がしてあり、分かりやすい。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験ごとに位置付けられている考察では、まとめにつながる結果や考え方を児童キャラクターの発言で示している。 ・結果から分かったことを他の場面で活用して考え、説明する場を設定することで、分かったつもりを本当に分かるにする工夫がある。
2 岐阜県教育振興 基本計画 (平成 31 年 3 月策定)	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・地震による大地の変化として濃尾地震で地表に現れた断層とそれを観察できる根尾谷断層観察館を紹介している。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生「電気と私たちの生活」ではLEDを点滅させるプログラムを考え、つくる活動に3ページ使っている。(プログラミングは6年生のみ) ・実験方法、学びを深める場面での使用を中心に、デジタルコンテンツにつながる2次元コードが配置されている。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験方法の説明の際に、イラストと実物の写真を使用している。A B版というサイズでスペースに余裕がない印象を受ける。 ・キャラクターや写真は男女平等で協力しながら学びを高め合えるように配慮している。
3 印刷・製本等	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・A B版であるため児童机の上で扱いやすい。 ・ページ数が増加し、A B版を出す他者の教科書より重量が大きい。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・問題とまとめの文字は大きい。 ・重要語句は太字で強調されている。 ・文節で改行していない部分もある。 ・難しい漢字は初出時のみふりがなが付されている。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末には「考えよう調べよう」として問題の見つけ方、聞き方・伝え方、記録の仕方、調べ方、ICTの活用の仕方、理科室の使い方、観察・実験器具の使い方、自己評価、理科用語を載せている。

意見書

教 科
理科

種 目
理科

発 行 者
教育出版

調査項目	意 見	
1 学習指導要領 (平成 29 年告示) ・何ができるようになるか ・何を学ぶか ・どのように学ぶか	(1)	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入に、児童の疑問を引き出す事物・事象の写真を載せている。 問題解決の過程「見つける」「考えをつくる」「考えを確かめる」「わかったことを表す」段階で、どんな考え方ができればよいかを児童のせりふで例示説明してある。 問題解決の過程で働かせたい「見方」「考え方」を児童のせりふにマーカーを引き、「考え方のカギ」「見方のカギ」と示している。 学習前の問題について学習後に答える活動によって、自分の成長を確かめることができる。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入で学年間の学習のつながりが明記されている。 「資料」「科学のまど」と題し、発展的な内容や社会とのつながり、中学校での学習へのつながりを紹介している。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> 予想・計画の段階で実験結果まで見通すことを重視しており、考察では「予想通り～」「予想と違って」「見通しの通り」と予想の確かめとして考察を位置付けている。
2 岐阜県教育振興 基本計画 (平成 31 年 3 月策定)	(1)	<ul style="list-style-type: none"> 地震による土地の変化として濃尾地震が取り上げられ、地表に表れた土地のズレが写真で紹介されている。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> デジタルコンテンツにつながる二次元コードは問題解決の過程ではなく、まとめの後に「資料」としてつくことが多い。 「電気の利用」の学習においてプログラミングアプリの紹介と実際にプログラムをつくる活動が取り上げられている。(6年生のみ)
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> 車椅子を使用している児童や外国人の児童が活動する様子を取り上げ、多様な児童が男女で学ぶことができるように配慮されている。 観察・実験方法の説明の際に、イラストが多用されており、写真が少なめである。
3 印刷・製本等	(1)	<ul style="list-style-type: none"> AB変形版であるため、児童機の占有面積はやや大きい。 ページ数が多く、その分重量も大きくなっている。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> 文字が大きく、文字の線が太い。 ルビは基本的にはない。 文節で改行されている。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> 巻末には「使い方・調べ方」として、写真や動画のとり方、実験・観察器具の使い方、理科室の使い方、科学館や博物館の利用、算数とのつながり、6年生で学んだことがまとめられている。

意見書

教 科
理科

種 目
理科

発 行 者
啓林館

調査項目	意 見	
1 学習指導要領 (平成 29 年告示) ・何ができるようになるか ・何を学ぶか ・どのように学ぶか	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのサイクルとして「見つける」「調べる」「まとめる」に続けて「もっと知りたい」を掲載することで、特に新たな問題発見に向かう意欲を高めている。 ・「見方・考え方」は児童キャラクターの発言で示され、ポイントになる言葉にマーカーが引かれ、大変意識しやすい。 ・「はじめに考えよう」「もう一度考えよう」と題し、単元導入と単元末に同じ問いに答える活動によって、学びを実感できる。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・「理科の広場」「くらしとリンク」と題し、身近な生活体験を取り上げた上で、さらに社会との関連を多く取り上げ、資料性の高い写真やイラストが多く、理科の学びが深まり有用性をより実感できる。 ・巻末「理科につながる算数のまど」では理科の学びを使って、算数の既習事項を再確認できるようにしてある。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・実験ごとに配置された考察では、児童キャラクターの会話例を通して予想したことと照らし合わせながら考えることを示している。
2 岐阜県教育振興 基本計画 (平成 31 年 3 月策定)	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・水族館の紹介として各務原市の「アクア・トトぎふ」、化石の紹介として瑞浪市のビカリアの化石、地層のでき方(6年)として、長良川の河原の礫、白川村の豪雪、海津市のヘチマ(5年)というように最も多く岐阜県が取り上げられている。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で学習内容との関連付けをはかりながらプログラミングを体験する活動を取り入れ、特に6年生では電気を無駄なく使うことを目的とし、センサーを使用したプログラミングを体験する活動を設定している。 ・随所に2次元コードを配置するとともに、一人1台端末の活用場面が最も多い。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルとして表す図以外はほぼ実物の写真を使用されており、多くの児童が視覚的に理解しやすいレイアウトになっている。 ・性別、人種、身体的特徴に配慮されたイラスト、写真を使用している。
3 印刷・製本等	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・A B版であること、ページ数を減らすことなく軽量化されていることから大変扱いやすい。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の大きさや太さが必要に応じて変えてあり、読みやすい。 ・文節で改行し、読みやすい。 ・読みの難しい漢字にはふりがなが付されている。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末には「資料室」とし、ノートのとまとめ方、伝え方、施設の紹介、算数とのつながり、ものづくり、見方・考え方がまとめてある。